一般演題6-4
南九州におけるスクーバダイバーの減圧症に対する認識調査

改元敏行[1)]　盛本真司[1)]　小村　寛[1)]
川田慎一[1)]　尾崎修一[1)]　山本遼太郎[1)]
有村敏明[2)]　山口俊一郎[2)]　濱崎順一郎[2)]
上野　剛[2)]

1）鹿児島市医師会病院　高気圧酸素治療室
2）鹿児島市医師会病院　麻酔科

【目的】

鹿児島は全国でも有数の離島県でスクーバダイビングも盛んである。当院では第2種装置を有しており減圧症に対する再圧治療をおこなっている。減圧症の患者の中には発症から再圧治療に至るまでの時間が長かったことや，手足に痺れがあったのにもかかわらずダイビングを続けていたことなどを聞くことがあり，減圧症に対しての認識にバラツキがあると感じた。そこで，南九州3県（鹿児島，宮崎，熊本）におけるスクーバダイバーの状況および減圧症に対する認識についてのアンケート調査を実施した。

【方法】

スクーバダイビングの情報サイトから抽出した南九州のダイバーショップ97施設（鹿児島81施設，宮崎7設，熊本9施設）を対象とし，調査依頼書を書面で郵送し，WEBアンケートにて回答をお願いした。

【倫理的配慮】

調査依頼書により調査の趣旨と個人情報保護に十分注意を払うことを明記し，回答をもって同意とみなした。

【結果】

アンケートの回答率は37.1%（鹿児島31施設，宮崎1施設，熊本4施設）であった。スクーバダイバーの状況は「DANジャパンに入会している」が53.6%であった。回答者の1日の潜水本数は最小値が0.9本，最大値が4.1本，平均値が2.4本であった。1ヶ月の潜水本数は最小値12.8本，最大値59.9本，平均値32.1本であった。インストラクターの潜水深度は最小値4.0m，最大値37.2m，平均値15.6mであった。ダイバー客の潜水深度は最小値4.0m，最大値31.3m，平均値14.8mであった。「全ダイバーで潜水後（数日後も含む）に体の不調や何らかの違和感経験あり」の施設は32.3%であった。そのうちの違和感症状の人数は，「吐き気」7人，「耳鳴り」7人でもっとも多く，次いで「歩行困難」5人，「ふらつき」5人であった。考えられる原因では「気象海象の不注意」7人，「技量の未熟」7人がもっとも多かった。また，「病院受診をした」が4人であり，受診の中で「HBOTをした」が3人であった。

減圧症の症状についての認識では「知っている」と「やや知っている」を合わせると100%，減圧症の対応（マニュアル等）では「把握している」と「やや把握している」を合わせると100%，減圧症に対するHBOTの効果についての認識では「知っている」と「やや知っている」を合わせると100%であった。一方，第1種装置と第2種装置の違いについてでは「全く知らない」，「よく知らない」を合わせると20%であり，ダイビング近辺または南九州に再圧治療ができる施設では「全く知らない」，「よく知らない」を合わせると23.3%であった。

【アンケートのまとめ】

今回の調査では回答率は低めであったが南九州におけるスクーバダイビングの状況を把握することができた。

認識については全ての施設が減圧症の症状や対応を把握していた。しかし，再圧治療に関連する認識についてはややバラツキがあると示唆された。また，今回はDAN会員の割合が高いことから，認識度が高いと考察し，アンケート未回答も含め南九州全施設になれば認識度が下がる可能性が十分考えられる。

【結語】

減圧症と再圧治療は深く関連することから広報活動等を通じて再圧治療の認識度の向上のために周知することが重要であると考えられた。